第８講　否定形（全部否定・部分否定）

PART1　部分否定の読みが「〜ハ」となるもの

一　「全部否定」と**「部分否定」**（右が全部・左が部分）

① 常不〜＝つねニ〜ず／（いつも〜ない）
不常〜＝つね**ニハ**〜ず／（いつも〜とは限らない）

（例）
常不㆓先ニ食㆒ラハ。〔　　　　〕（　　　　）
家貧(ひん)ニシテ不㆓常得㆒レ油。〔家貧にして　　　　〕
注　油…灯火の油　（家が貧しくて　　　　）

② 倶不〜＝ともニ〜ず／（両方とも〜ない）
不倶〜＝とも**ニハ**〜ず／（両方ともは〜ない）

（例）不(じ)㆓倶生㆒キ。〔　　　　〕（　　　　）

③
盡（＝尽）不〜＝ことごとク〜ず／（すべて〜ない）
不盡（＝**尽**）〜＝ことごとク**ハ**〜ず／（すべて〜とは限らない）

④
甚不〜＝はなはダシク〜ず／（ひどく〜ない）
不甚〜＝はなはダシク**ハ**〜ず／（それほど〜とは限らない）

第8講 PART1 確認問題

① 次の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

両虎共闘、其*勢不二倶生一。

※勢…成り行き。

ア 片方は死んでしまう　　イ ともに生きのびる

ウ どちらも生き残ることはできない　　エ 仲たがいするだろう

② 部分否定の形をもつものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 常ニ不レ飲マレ酒ヲ。

イ 秋風吹イテ不レ尽キ。

ウ 仲尼ハ不ルレ為サ二已甚シキコトヲ一者ナリ。

エ 不二甚ダシクハ富マ一。

③　左の文が「すべてが必ずしも新開湖の漁師にかなうとは限らない。」と現代語訳されるとき、傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

未(三)必能尽附(二)新開湖漁人(一)也。

ア　ことごとく　　イ　ことごとくは　　ウ　つく　　エ　つくは

④　左の文を書き下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

両雄不(二)倶立(一)。

ア　両雄は倶には立たず。　　イ　両雄は倶して立せず。
ウ　両雄は倶に立たず。　　エ　両雄は倶立せず。

⑤　「無(二)常職(一)而賜(二)於上(一)者。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　働き先を変えてしまう　　イ　まったく働こうとしない
ウ　安定した職がない　　エ　働いていていない

第８講　PART1　解答

一

①〔常に先に食らはず。〕（いつも先に食べない。）

〔家貧にして**常には油を得ず。**〕（家が貧しくて**いつも灯火の油があるとは限らない。**）

②〔倶には生きじ。〕（両方ともは生きてはいないだろう。）

第8講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不倶～」は「ともニハ～ず」と読む部分否定の句形。ここでは「両方ともは生きない」という意味なので、片方は死んでしまうということ。よって、アが正解。

② それぞれ読み下すと、アは「常に酒を飲まず。」（全部否定）。イは「秋風吹いて尽きず。」（単純否定）。ウは「仲尼は已甚しきことを為さざる者なり。」（単純否定）。エが「甚だしくは富まず。」で「はなはダシクハ～ず」という部分否定の形をとっている。よって、エが正解。

③ 「すべて～とは限らない」という部分否定の訳が含まれているので、「未～尽」を部分否定ととらえて「ことごとくは」と読み下す。全体では「未だ必ずしも能く尽くは新開湖の漁人に附せざるなり。」となる。よって、イが正解。

④ 「不倶～」は部分否定で「倶には～ず」と読み下す。よって、アが正解。

⑤ 否定を表す「無」の下に「常」があることから、「無常職」は部分否定だと判断できる。「いつも職があるとは限らない」という意味のものを選ぶ。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② エ　③ イ　④ ア　⑤ ウ